



〈雑録〉本邦綿業工場ニ於ケル労働者問題(2)

山本, 純吉

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 2(6):769-776

(Issue Date)

1907-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051150>



雜 錄

本邦綿業工場ニ於ケ

ル勞働者問題 (其二)

商學士 山本純吉

第四 勞働者ニ對スル施設

イ 職工ノ養成

器械ノ發明ト改良トハ其運轉作用ヲ迅速ナラシメ又其構造ハ益々複雑ヲ加フルニ至リ作業ニ從事スル勞働者ハ充分ナル知識技能ヲ有スルニ非ラザレバ這般器械ノ效用ヲ發揮シ能ハザルニ至レリ、而シテ勞働者知識ノ増進ハ一般社會ノ文化ニ負フ所極メテ大ニシテ政府及ビ公共團體ノ施設ニ俟ツ所多シト雖モ亦他方ニ於テ職工ニ對スル特殊ノ知識技能ノ養成ハ工場ニ於ケル實物教育ニ伴フヲ要ス、サレバ我綿業工場ニ在リ

テハ普通新ニ雇入レラレタル職工ノ爲メニハ一定ノ期間熟練ノ職工ヲシテ機械ノ取扱、執務ノ方法等ヲ指導セシムルノ外特ニ教場ヲ設ケ教師ヲ招キテ操業ノ餘暇讀書作文算術習字等ノ普通學科ヲ授ケ又女工ニ對シテハ此他裁縫ヲ教授シ且ツ毎月寄宿舎ニ於テ宗教家ヲ聘シテ道德講話ヲ催シ時ニ或ハ衛生教育ニ關スル幻燈ニ依リテ勞働者ノ道德知識ノ増進ヲ企圖セリ、此他鐘ケ淵紡績會社ノ如キハ勞働者ノ爲メ毎月雜誌ヲ發行シ無代價ヲ以テ之ヲ頒布シ技術及ビ一般知識ノ養成ニ資セリ、又同社兵庫工場ニ於テハ技術養成ノ爲メ幼年職工養成規則ナルモノヲ設ケ特ニ之レヲ厲行シツ、アリ、此ノ方法タル我が綿業界ニ好模範ヲ示ス者ナルガ故以下該規則ノ全文ヲ掲ゲテ參考トス

第一條 當會社ハ模範トナルベキ善良ナル紡績職工ヲ養成

センガ爲メ廣ク全國ヨリ幼年ノ男子ヲ募集ス

第二條 應募者ハ左記各項ニ該當スルヲ要ス

一 尋常小學校卒業ノ男子ニシテ年齡十三歲以上滿十六歲以下ノ者

二 當會社囑托醫師ノ體格檢査ニ合格セル者

三 紡績職工ヲ以テ自ラ立ツノ希望ヲ有スル者

第三條 前條ノ應募者ニシテ當會社ニ收容セシ者ヲ幼年職工ト稱シ其ノ修習期間ヲ滿三ヶ年トス

第四條 紡績職工修習期間中當會社ノ精紡仕上ケ兩科ニ於テ先ヅ女工同様ノ業務ヲ執ラシメ技術ノ熟達體格ノ發育ニ隨ヒ各科機械ノ取扱方及ビ業務ノ順序方法等ヲ練習セシメ尙ホ且ツ簡單ナル學校ノ設備ヲナシ日常業務ノ餘暇ヲ以テ普通學ヲ教授ス

第五條 幼年職工修習期間中食料被服履物其ノ他必要ナル日用品ハ總テ當會社ヨリ支給シ尙ホ毎月小使錢トシテ各自ノ技術等ニ應ジ左ノ手當金ヲ給ス

一等金八拾錢 二等金七拾錢 三等金六拾錢
四等金五拾錢 五等金四拾錢 六等金參拾錢

第六條 幼年職工修習期間中ハ特ニ當會社ノ設備ニ係ル幼年職工寄宿舎ニ寄泊セシメ一切通勤ヲ許サズ

第七條 幼年職工寄宿舎ニハ監督者ヲ置キ各幼年工ノ行狀ヲ監視シ懇切叮嚀ヲ旨トシ被服ノ仕立洗濯等ヨリ總テ日用ノ供給ニ至ル迄萬事不自由ナカラシメン事ヲ期ス

第八條 幼年職工修習期間中滿二ヶ年以上精勤シタルモノハ二週間以内ノ休暇ヲ與ヒ望ミニ依リ旅費ヲ給シ歸國休養セシムルコトアルベシ

第九條 當會社所定ノ休業日以外ニ止ムヲ得ザル事項又ハ病氣ニ依リ一ヶ年中十四日以内ノ休業ハ之ヲ缺勤ト見ナサズ

第十條 幼年職工修習期間中疾病ニ罹リタルトキハ當會社費ヲ以テ當會社附屬ノ病院ニテ治療セシム

但シ歸國療養ヲ希望スル者ニハ其ノ技術勤務年月ノ長短ニ準ジ相當ノ手當及ビ旅費ヲ給與シ歸國療養セシム尤モ病氣ノ性質ニ依リ歸國ヲ必要トスルモノハ上文ノ制限ニ從ハズ

第十一條 幼年職工修習期間中左記各項ノ一以上ニ該當スル者ハ退社ヲ命ズベシ

- 一 業務ニ勤勉セザルモノ
- 二 不正ノ行爲アルモノ
- 三 技術熟達ノ見込ナキモノ
- 四 不治ノ病ニ罹リタルモノ

但シ退社セシ場合ニハ歸國旅費ヲ給スベシ

第十二條 幼年職工修習期限ヲ修了シタルモノニハ職工通任證書ヲ付與ス

第十三條 幼年職工修習期限ヲ終了シタル者ハ本職工トシ

テ滿三ヶ年當會社ニ勤務スル義務アル者トス

第十四條 前條ニ從ヒ本職工トナル契約ナシタル者ニハ一時ニ金百圓ヲ給與シ本人又ハ本人指定ノ親族若シクハ後見人ニ付與シ尙ホ普通職工ト區別シテ特ニ之レヲ優待シ左ノ規定ニ依リ給料ヲ支給ス

特別 一等 二等 三等

汽機科 壹圓以上 八拾錢以上 五拾錢以上

汽鐘科 //

打綿科 七拾錢以上 五拾錢以上 四拾錢以上

枕綿科 //

初粉科 //

精粉科 六拾錢以上 四拾錢以上 參拾五錢以上

仕上科 //

第十五條 幼年職工應募者ニシテ來社ノ旅費ヲ自辨シ能ハ

ザル者ニハ當會社ニ於テ立營置キ修習期限終了後之ヲ返

納セシム

第十六條 幼年職工トシテ許可サレタル者ハ別紙書式ノ契

約書ニ戶籍謄本ヲ添エ當會社ニ提供スルモノトス

第十七條 本則ニ規定ナキ者ハ尙ホ民法雇傭ノ各項ニ從フ

モノトス

(附則略)

鐘ヶ淵紡績會社ニ於テ此規則ヲ實施セルハ最近ニ屬シ從テ其成績ノ如何ハ之ヲ徵スルニ由ナシト雖モ必ズヤ修養アル熟練職工ヲ養成シ我ガ綿業者ニ好模範ヲ與フルモノアルヤ明カニシテ本邦工業家ガ既ニ職工ノ養成ヲ以テ工業ノ隆興上最モ重要ナル問題タルヲ自覺セルモノト云フベキナリ

□ 職工貯金及ビ職工保險

勞働者生産能力増加ノ手段トシテ其地位改良ノ爲メニスル積極的ノ施設ノ必要ナル論ヲ俟タズト雖モ之レト同時ニ勞働者ヲシテ生活上ノ基礎ヲ得セシメ安心立命ノ地位ヲ得セシムルコト亦頗ル有要ナル事項トス、思フニ勞働者ノ境遇タルヤ一朝業務上ノ災害又ハ疾病老衰及ビ癡疾等偶然ノ事項ニ依リテ其ノ體力ヲ喪失センカ全ク收入ノ途ヲ失ヒ勞働者自身ノミナラズ又其ノ家族ヲモ窮民ノ伍ニ陷ル、危險アリ、元來我ガ

國勞働者ハ貯蓄心ナキノミナラズ、反テ之レヲ以テ同輩ニ對シ耻辱トスルモノナルガ故之レヲ自由ニ放任スレバ其ノ受クル賃銀ノ全部ハ悉ク酒食其他ノ肉體的ノ欲望充足ノ爲メ徒費セラレ精神ノ欲望的ヲ充タシ生活上進ノ目的ニ用ユルコト甚稀ナリ、綿業ニ於ケル女工ノ如キ當初ニ於テハ婚嫁ノ資ヲ得セントスルモノ多シト雖モ寄宿舍内ナル惡風ニ感染シ其ノ目的ヲ達スルモノ誠ニ渺シト云フ故ニ現今各工場ニ於テハ普通保證金、信認金、積立金等ノ名目ノ下ニ勞銀支給ノ際其ノ幾分ヲ強制的ニ貯蓄セシメ之レニ對シテ一定ノ利子ヲ附スルモノ多シ又或ル會社ニ在リテハ任意ニ職工ノ貯金ヲ取扱ヒ之レニ對シ市場ノ一般利子ヨリモ大ニ高率ノ利子ヲ附スルモノアリ、東京鐘ヶ淵紡績會社ニアリテハ此種貯金ニ一割ノ利子ヲ付シ其ノ貯金千口以上其ノ總數額千五百圓以上ニ達セリト云フ(綿絲紡績職工事情九九頁以下)

職工保險ハ職工貯金ト相俟テ其ノ生活ノ保證ヲナスモノナリ、抑々貯金ニ在リテハ性質上必要ノ際其ノ額少ク充分其ノ目的ヲ達スル能ハズト雖モ保險ニ有リテハ一定ノ纏リタル金額ヲ受ケ取り得ルガ爲メ、彼レ等ヲ窮境ヨリ救済スルニ甚ダ有效ナル場合アリ、思フニ貧民ノ増加ハ國民經濟上甚ダ喜ブベキノ現象ニアラズ故ニ國家モ之レニ對シ一定ノ設備ヲナスノ必要アリト雖モ我が國ニ於テハ社會政策ノ進歩甚ダ幼稚ニシテ歐洲諸國ガ既ニ久シク實行セル勞働者保護法ノ如キ其ノ形跡ダモ之レヲ認ムル能ハザルハ最も遺憾トスベキ所ナリ又普通ノ生命保險會社ニ在リテモ工場勞働者ハ危險ノ度合多キト一口ノ保險金額ノ少額ニシテ保險料ノ繼續的拂込モ亦保證シ難キノ不利益アルヲ以テ保險業者ハ職工個々ノ契約ヲ喜ハザル有様ナリ從テ勞働者保險ハ他ノ方法ニ依リ特種組織ノモノヲ設ケザルベカラザルナリ而シテ其ノ種類ニハ(一)相互的

ノモノニシテ勞働者ガ共濟ノ目的ヲ以テ設立スルモノ(一)工業者ガ勞働者救濟ノ爲メ組織セルモノ(二)勞働者工業主共同シテ勞働者救濟ノ爲メ組織セルモノ、三アリ、而シテ現今我が綿工場間ニ行ハル、モノハ工場主單獨ニ之レヲ行ヒ勞働者ヲシテ強制的ニ加入ノ義務ヲ負ハシメ其ノ保險料ノ如キ彼レ等勞銀ノ支給ノ際差引拂込マシムルモノニシテ工場ハ之ヲ一纏メトシテ保險營業者ニ依頼スルモノナリ例ヘバ小名木川、富士紡績ノ如キ之レナリ、又東京鐘ヶ淵紡績會社ニ於ケル共濟組合ナルモノハ以上ノ第三種ニ屬スベキモノニシテ定款ノ示スガ如ク職工及ビ工場主ノ結合的組織ニシテ全勞働者ハ一般ニ加入ノ義務ヲ課セラル、モノナリ

上述ノ職工貯金及ビ保險ハ我が國綿業者ガ職工ノ利益ヲ計ルノ主旨ヲ以テ設クル所ナリト稱スルモ同時ニ職工ノ逃亡移轉ヲ防禦スル足止メ策トシテ利用セラル、モノナリ、從テ強制的貯

金ノ如キハ契約期間中不都合ノ行爲ニ因リ解雇セラル、場合無届缺勤又ハ逃亡歸國ヲ爲シ三ヶ月乃至一ケ年間拂戻ヲ請求セザル場合、雇主ノ許諾ヲ經ズシテ契約期限中他ニ轉セル場合、及ビ故意ヲ以テ雇主ニ損害ヲ蒙ラシメタル場合等ニハ彼レ等ノ蓄積セル貯金及ビ保險料ヲ沒收スルコトナリ、之レガ爲メ勞働者ハ毫モ貯金又ハ保險ノ制度ノ利益ヲ感セザルノミナラズ、反テ不平ヲ訴フルコト甚ダ多シ、故ニ現時ノ貯金並ニ保險ノ制度ハ早晚改善ヲ要スベキモノニシテ信認金ト貯金トノ區別ヲ明ニシ雇主ヲシテ任意ニ貯金ヲ沒收スル能ハザラシムルヲ要ス、而シテ其方法トシテハ政府ノ干渉ニ依ルベク一ハ以テ工場主ノ不當ノ利得ヲ防ギ他ハ以テ勞働者ヲシテ貯金保險制度ノ利益ヲ自覺セシムルノ途ヲ講ズベキナリ

ハ 職工ノ衛生及ビ生活ニ關スル施設

機械ノ改良ガ生産増進上ニ必要ナルト同時ニ職工ハ亦機械以上遙カニ必要ナル生産要素ナルガ故ニ其地位ノ改良ハ甚ダ忽諸ニ付スベカラザル問題ナリ、由來心身ノ關係ハ密接シテ離ルベカラズ智育ノ啓發モ技術ノ鍛鍊モ强健ナル身體ヲ缺テ始メテ其ノ效果ヲ生ジ得ベキノミ、從テ彼レ等ノ生活ニハ相當ノ愉快ヲ與ヘ其ノ健康ヲ増進スルニ非ラザレバ生産功程ノ増加ハ得テ望ムベカラズ特ニ綿業ニ於テハ婦女少年多クシテソノ身體ハ云フマデモナク纖弱ニシテ疾病ニ侵サル、ノ危險最モ大ナリ、又一棟ノ工場内ニ多數職工ヲ集合セシムル結果一朝惡疫ノ流行アレハ其ノ傳播ノ速カニシテ社會上ノ危險大ナルノミナラズ其ノ生産界ニ及ボス影響ハ一層大ニシテ般鑑遠カラズ明治二十九年印度ニ於ケル黑疫ノ綿業ニ及ボセル慘害ニ就テモ知ル事ヲ得ベキノリ

我綿工場ニハ現今此種設備トシテハ先ヅ寄宿

舍内ニ娛樂所アリ、日用品供給所アリ、浴室アリ、又洗濯場等ノ設アリテ職工各自ノ娛樂及ビ衛生ヲ保持スルト共ニ多クハ工場内ニ病院ヲ有シ専門ノ醫師及ビ看護婦ヲ置キ病者ニ對シテハ無料施藥及ビ滋養物ノ供給ヲ爲サシム、又配遇者及ビ通勤職工ニ對シテハ工場ニ接近シテ住宅ヲ設ケ其ノ規模小ナリト雖モ最モ衛生ニ留意シ著シキ廉價ヲ以テ職工ニ貸貸ス我綿工場中常ニ職工待遇ノ改良ニ對シテ先鞭者タル鐘ケ淵紡績會社ハ明治三十五年以來職工衛生基金ナル者ヲ設ケ職工ヲシテ娛樂アリ趣味アル生活ヲ得セシムルノ資ニ供セリ今其ノ規則次ノ如シ

第一條 職工ノ衛生基金ハ職工ノ生活ヲ愉快ナラシメ間接

ニ勞働力ヲ増進スルノ目的ヲ以テ積立ツルモノトス

第二條 職工衛生基金ハ相當ト認ムル金額ヲ株主總會ノ決

議ヲ經テ利益金中ヨリ引き去リ編入スルモノトス

第三條 該基金ハ各店工場ニ於テ第一條ノ目的ヲ達スルニ

有効ナリト思考スル方法ヲ定メ支配人ヨリ取締役會ニ伺

ヒノ上其ノ評議ヲ經テ必要ノ金額ヲ支出スルモノトス

第四條 各店ニ從來設備シアル救済委員、獎勵委員、懲罰委員ノ外衛生委員ヲ置ク

第五條 衛生委員ハ五名トシ一名ハ職工係ヨリ其ノ他ハ工務掛及ビ職工ノ内ヨリ各工場長ニ任命ス

第六條 工場長衛生委員ハ常ニ職工ノ衛生ニ注意シ被レ等ノ生活ヲ愉快ニシ永ク勤續セシメ以テ勞働力ノ増加ヲ謀リ間接ノ利壽ヲ増進シ得ル利益ヲ見出シタルトキハ其ノ方法ノ多少ニ係ラズ其ノ意見ヲ支配人ニ提出スベシ

二 勞働者自身ノ設備

大規模工業ノ發達ハ企業者及ビ勞働者ノ社會的地位ノ懸隔ヲ甚シカラシメ其結果少數ノ知識アル工場主ノ外多クハ職工ノ幸福ヲ増進スルハヤガテ生産上又有利ナルヲ解スルモノナク其資本的勢力ヲ濫用シテ勞働條件ノ如キ常ニ勞働者ニ對シ不利ノ點ニ於テ決定セラレザルハナシ、故ニ文明國ニ於ケル勞働者ハ自衛ノ目的ヲ達セムガ爲メ互ニ相團結シテ工場主ニ對シ一勢力ヲ組織セザルモノナシ、英國ニ於ケルTrade union及ビFriendly societiesノ如キ勞銀ノ標準率ヲ制

定シ資本家ニ對シ利益アル條件ヲ以テ勞働契約ノ締結ヲ計リ之レト同時ニ同輩間生活ノ確實ヲ期センガ爲ニ保險事業、消費組合、社交俱樂部等相互的救済ノ方法ヲ講ズ、而シテ其實蹟タルヤ操縦宜シキヲ得タル國ニ於テハ勞働者地位ノ向上ヲ助ケ生産能力ヲ増加セシメ以テ經濟上及ビ社會上ノ利益幸福ヲ増進セシメタリ、然レドモ其濫用甚ダ大ナルモノナリ、要ハ唯ダ之レガ指揮運用者ノ才能ニ俟ツコト深シ、然ルニ我が國勞働者ノ情態タルヤ前述ノ如ク教育不充分ニシテ獨立目的ノ精神乏シク依テ例ヘ此ノ種團結ヲ構成スルコトアリトスルモ其統禦者ヲ得ルハ殆ド不可能ノ事ニ屬ス、殊ニ我が國綿工場ニハ勞働者ノ大多數ハ婦女及ビ少年ナリ、故ニ彼レ等ノ間ニ此ノ種組織ノ成立ヲ見ンコトハ到底夢想シ能ハザル所ナリ、但シ稍ヤ之レト類似セル組織ヲ採リ早晚此ノ種團結ノ基礎トモナルベキモノハ鐘ケ淵紡績會社ニ於ケル共濟會ナリ、此ノ

内容ハ一種ノ消費組合ニシテ役員ハ社員ヲ以テ之レニ充テ會社又多分ノ補助ヲナシ日用品、米、薪炭、醬油、砂糖、其ノ他荒物吳服太物等大量ニ購入シ以テ之レヲ原價以下ニテ勞働者ニ分配スルコト恰モ彼ノ英國綿業地ニ行ハル、フレンドリー、ソサイエティーノ事業ノ一部ヲ履行シツツアルモノナリ、此ノ如キ會合ハ工場主ニヨリ唱導セラレ現今尙ホ工場主側ノ監督及ビ補助ヲ受クト雖モ近キ將來ニ於テハ勞働者自身之レヲ經營シ行クベキ能力ヲ具滿シ來ルベキヤ疑ヲ容レザル所ナリ(完結)

白耳義町村鐵道ノ近況

關

一

白耳義ハ歐洲諸國中最モ地方鐵道ノ發達セル邦國ニシテ本誌(第一卷七號並ニ第二卷一號)ニ掲載セル拙稿地方鐵道論中ニ於テ同國ニ關シテ述ブル所少カラザリシト雖モ當時最近ノ材料ヲ缺キタルヲ以テ不備ノ點少ナカラズシテ讀者

ニ背ク所多キヲ憾トセリ然ルニ近著ノ *Revue économique internationale*, Fev. 1907 ニ載スル所ノ同國町村鐵道會社事務取締役 de Burlet 氏ノ *Nos chemin de fer vicinaux* ナル論文ハ同國ノ狀況ヲ說クコト詳密ヲ極ム今抄譯シテ地方鐵道論ノ補遺トナス

一、町村鐵道會社ノ設立竝ニ其線路 同社ハ一八八五年六月二十四日ノ法律ニ基ヅキ同年七月六日成立シ直ニ事業ニ着手シ一八八六年三月始メテ二線路ノ許可ヲ經タリ爾後其線路延長次ノ如シ

年次	總路數	特許線路	營業線路
一八八七	二八	五一	三一五
一八九〇	四九	九六〇	七五三
一八九五	七五	一、五五四	一、二五八
一九〇〇	一〇四	二、三八四	一、八四〇
一九〇五	一四三	三、五五〇	二、七七一
一九〇六	一五五	三、八七〇	二、九一九

白耳義ニ於テ現今普通鐵道ト町村鐵道ヲ合スレバ延長七二五八基米ニ達シ百平方基米ニ付二四・六基米ニ上リ世界ニ於テ最モ稠密ナル線路